(3) 騒音

ア 環境騒音

調査地域周辺における環境騒音の調査結果を表 3-1-19 に、調査地点の位置を図 3-1-18 に示す。 昼間は堤起町、夜間は堤起町及び忠次一丁目を除いて、環境基準を達成している。

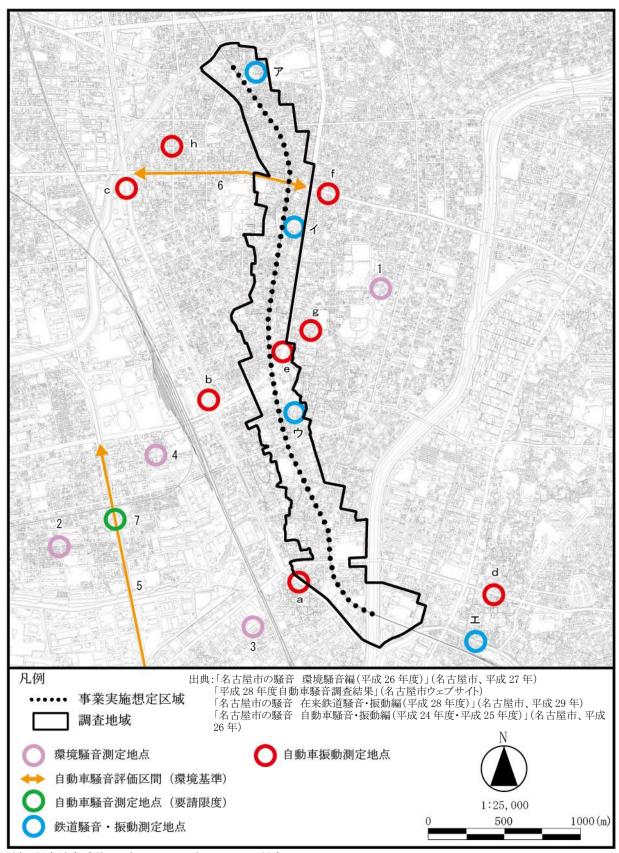
表 3-1-19 環境騒音の調査結果(平成 26 年度)

| 調査地点 | | 用途地域 | | 時間帯 | 騒音レベル (dB) | 環境基準 (dB) | 環境基準 の適否 適:○否:× |
|------|---------------|---|---|-----|---------------|--------------|-----------------------|
| 1 | | 第二转由立屋住民市田地 校 | _ | 昼間 | 53 | 55 | 0 |
| 1 | 南区見晴町 | 第二種中高層住居専用地域 | А | 夜間 | 40 | 0 | |
| 0 | 表 反相 却 | 英 移住足地 材 | В | 昼間 | 58 | 55 | × |
| 2 | 南区堤起町 | 第一種住居地域 | | 夜間 | 49 | 45 | × |
| 0 | - 表示表取二十日 | 丁₩ llu + P | | 昼間 | 56 | 60 | 0 |
| 3 | 南区南野三丁目 | 工業地域 | С | 夜間 | 39 | 50 | 0 |
| 4 | 表层出版 工具 | 一十. 4. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. | | 昼間 | 59 | 60 | 0 |
| 4 | 南区忠次一丁目 | 工業地域 | С | 夜間 | 57 | 50 | × |

注) 1. 昼間:6 時~22 時、夜間:22 時~翌6時

出典: 「名古屋市の騒音 環境騒音編(平成26年度)」(名古屋市、平成27年)

^{2.} 調査地点番号は、図 3-1-18 に対応している。



注) 調査地点番号は、表 3-1-19~表 3-1-24 に対応している。

図 3-1-18 騒音・振動の調査地点

イ 自動車騒音

(ア) 道路に面する地域の環境基準

調査地域周辺における、平成28年度の自動車騒音調査結果(環境基準関係)を表3-1-20に、調査地点を図3-1-18に示す。

環境基準の達成率については、昼間・夜間とも100%には満たない状況となっている。

| 表 3-1-20 | 自動車騒音の調査結果(環境基準関係)(平成 28 年度) |
|----------|------------------------------|
| 20 1 20 | |

| | 調査地点 | | 評価 | 評価区間 | | | 環境 | 環境 | 調査 |
|---------|------|---------|---------------|--------|-----|---------------------------------------|-----------------------|----------------------|------------------------|
| 道路名 | | | 起点 | 終点 | 時間帯 | 騒音 レベル L _{Aeq} (dB) | 基準 達成 戸数 (戸) | 基準 達成 率 (%) | 國 区間内 全戸数 (戸) |
| 你因光00日 | | 南区浜田町 | 南区丹後通 | 南区弥次ヱ町 | 昼間 | 70 | 410 | 96 | 496 |
| 一般国道23号 | 5 | | | | 夜間 | <u>70</u> | 350 | 82 | 426 |
| 主要県道 | C | 6 南区薬師通 | 南区千竈通 南区桜本町 | + - W | 昼間 | 69 | 856 | 94 | 007 |
| 東海橋線 | ь | | | | 夜間 | 65 | 845 | 93 | 907 |

- 注) 1. 昼間:6時から22時 夜間:22時から翌日の6時
 - 2. 調査地点番号は、図 3-1-18 に対応している。
 - 3. 各調査地点は、いずれも幹線交通を担う道路に近接していることから、「幹線交通を担う道路に近接する空間」の基準(昼間:70dB以下、夜間:65dB以下)が適用され、環境基準を超過したものについては下線で示す。

なお、「幹線交通を担う道路」とは、高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道(市町村道にあっては4車線以上の区間に限る)等を表し、「幹線交通を担う道路に近接する空間」とは、以下のように車線数の区分に応じて道路端からの距離によりその範囲を特定する。

- ・2車線以下の車線を有する道路 15m
- ・2車線を超える車線を有する道路 20m

出典:「平成28年度自動車騒音調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

(イ) 自動車騒音要請限度

調査地域周辺における、平成28年度の自動車騒音の要請限度調査結果を表3-1-21に、調査地点を図3-1-18に示す。

昼夜とも、要請限度以下の数値となっている。

表 3-1-21 自動車騒音要請限度の調査結果(平成 28 年度)

| 道路名 | | 調査地点 | 時間帯 | 騒音レベル L _{Aeq} (dB) | 要請限度 (dB) | 要請限度との比較 達成:○ 超過:× | |
|---------|---------------|---------|-----|-----------------------------------|--------------|--------------------------|--|
| 一般国道23号 | - | - 古区浜田町 | 昼間 | 71 | 75 | 0 | |
| | 国道23号 7 南区浜田町 | | 夜間 | 70 | 70 | 0 | |

注) 1. 昼間:6 時から22 時 夜間:22 時から翌日の6 時

出典: 「平成28年度自動車騒音調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

^{2.} 調査地点番号は、図 3-1-18 に対応している。

ウ 在来鉄道騒音

調査地域周辺における、在来鉄道騒音の調査結果を表 3-1-22 に、調査地点の位置を図 3-1-18 に示す。

調査区域の3地点、区域外の1地点で名鉄名古屋本線を対象に調査が行われており、等価騒音レベルは近接側軌道の中心より12.5mの地点で51~65dB、25mの地点で50~63dBとなっている。

表 3-1-22 在来鉄道騒音の調査結果(平成 28 年度)

| 路線名 | | 調査地点 | 軌道構造 | 測定側 | L | 音レベル ^{Aeq} B) | 最大騒音 L _A (d | 列車速度 (km/h) | |
|-----------|---|-----------|------|-----|-------|------------------------------|------------------------------|----------------|----|
| | | | | | 12.5m | 25m | 12.5m | 25m | |
| | ア | 南区呼続元町 | 平地 | 下り側 | 64 | 56 | 82 | 74 | 84 |
| 名鉄 | イ | 南区西桜町 | 盛土 | 下り側 | 61 | 58 | 79 | 75 | 89 |
| 名古屋 本線 | ウ | 南区粕畠町 | 平地 | 下り側 | 65 | 63 | 82 | 79 | 87 |
| | 工 | 緑区鳴海町字上汐田 | 高架 | 下り側 | 51 | 50 | 66 | 65 | 69 |

注) 1. 測定側は、名古屋駅方向を上りとする。

出典: 「名古屋市の騒音 在来鉄道騒音・振動編(平成28年度)」(名古屋市、平成29年)

^{2. 12.5}m と 25m は近接側軌道中心からの距離である。

^{3.} 列車速度は、12.5m 地点でのピークレベルを求めるために抽出した上位半数の列車の速度を算術平均して求めた。

^{4.} 調査地点番号は、図 3-1-18 に対応している。

(4) 振動

ア 自動車振動

調査地域周辺における、平成 24、25 年度の自動車振動調査結果を表 3-1-23 に、調査地点を図 3-1-18 に示す。

| | 我 0 · 20 日幼牛瓜幼07副丑和木 (| | | | | | | | | | |
|-----------|------------------------|----------|-------|---------|---------------|-----------------------------|--|--|--|--|--|
| | 調査地点 | | | 昼間10分間交 | 三 通量 | 振動レベル L ₁₀ | | | | | |
| 道路名 | | | 小型(台) | 大型(台) | 大型車混入率 (%) | 派動レットル L ₁₀ (dB) | | | | | |
| 一般国道1号 | a | 南区星崎一丁目 | 240 | 48 | 16.7 | 48 | | | | | |
| 一般国道1号、名古 | b | 南区本地通 | 441 | 67 | 13.2 | 47 | | | | | |
| 屋高速3号大高線 | С | 南区千竈通 | 451 | 54 | 10.7 | 47 | | | | | |
| 諸輪名古屋線 | d | 緑区鳴海町 | 224 | 23 | 9.3 | 44 | | | | | |
| 名古屋環状線 | е | 南区前浜通六丁目 | 207 | 65 | 23.9 | 49 | | | | | |
| 東海橋線 | f | 南区桜台一丁目 | 230 | 36 | 13.5 | 44 | | | | | |
| 组造体的 | g | 南区笠寺町 | 85 | 2 | 2.3 | 42 | | | | | |
| 緑瑞穂線 | h | 南区呼続一丁目 | 110 | 3 | 2.7 | 45 | | | | | |

表 3-1-23 自動車振動の調査結果(平成 24、25 年度)

出典: 「名古屋市の騒音 自動車騒音・振動編(平成24年度・平成25年度)」(名古屋市、平成26年)

イ 在来鉄道振動

調査地域周辺における、在来鉄道振動の調査結果を表 3-1-24 に、調査地点の位置を図 3-1-18 に示す。

調査区域の3地点、区域外の1地点で名鉄名古屋本線を対象に調査が行われており、振動レベルは近接側軌道の中心より12.5mの地点で44~66dB、25mの地点で44~62dBとなっている。

| 路線名 | 調査地点 | | 振動レベノ 軌道構造 測定側 (dB) | | | 列車速度 | | | |
|-----------|------|-----------|------------------------|-----|-------|------|--------|--|--|
| | | | | | 12.5m | 25m | (km/h) | | |
| | ア | 南区呼続元町 | 平地 | 下り側 | 61 | 57 | 84 | | |
| 名鉄 | イ | 南区西桜町 | 盛土 | 下り側 | 61 | 56 | 89 | | |
| 名古屋 本線 | ウ | 南区粕畠町 | 平地 | 下り側 | 66 | 62 | 87 | | |
| 7-7/200 | エ | 緑区鳴海町字上汐田 | 高架 | 下り側 | 44 | 44 | 69 | | |

表 3-1-24 在来鉄道振動の調査結果(平成 28 年度)

出典: 「名古屋市の騒音 在来鉄道騒音・振動編(平成28年度)」(名古屋市、平成29年)

注) 1. 振動レベル L_{10} は、昼間 10 分間における振動レベルの 80%レンジの上端値である。

^{2.} 調査地点番号は、図 3-1-18 に対応している。

注) 1. 測定側は、名古屋駅方向を上りとする。

^{2. 12.5}m と 25m は近接側軌道中心からの距離である。

^{3.} 列車速度は、12.5m 地点でのピークレベルを求めるために抽出した上位半数の列車の速度を算術平均して求めた。

^{4.} 調査地点番号は、図 3-1-18 に対応している。

(5) 悪臭

「平成29年版 名古屋市環境白書」(名古屋市)によると、平成28年度の名古屋市における悪臭に関する公害苦情処理件数は295件であり、苦情処理件数総数1,515件の19.5%を占めている。また、南区における悪臭に関する公害苦情処理件数は20件であり、苦情処理件数総数95件の21.1%を占めている。

(6) 温室効果ガス

2050 年を見据えた低炭素社会の実現に向け、名古屋市では「低炭素都市 2050 なごや戦略」を平成 21 年に策定している。この戦略の実現に向け、平成 23 年に「低炭素都市なごや戦略実行計画」を策定し、さらに平成 30 年に「低炭素都市なごや戦略第 2 次実行計画」を策定している。この中では、地球温暖化防止に向けた温室効果ガス排出量削減の長期目標として 2050 年に温室効果ガス 8 割削減(1990 年比)としている。

名古屋市における温室効果ガス排出量を表 3-1-25 に示す。2015 年度において最も排出量が多いのは工場・その他、次いでオフィス・店舗等となっており、基準年度の2013 年度より7.7%減少している。

表 3-1-25 温室効果ガス排出量

(単位:万トン-CO₂)

| ガス種 | 主体 | 活動区分 | 2013 年度 (基準年度) | 2015 年度 | 基準年度比 |
|--------------------|---------------------------|--------------------|-------------------|---------|--------|
| CO_2 | 市民 | 家庭 | 354 | 310 | -12.4% |
| | | マイカー | 152 | 142 | -6.1% |
| | 小計 | | 505 | 453 | -10.4% |
| | 事業者 業務用車 | | 198 | 177 | -10.9% |
| | | オフィス・店舗等 | 391 | 359 | -8.3% |
| | | 工場・その他 | 448 | 426 | -4.9% |
| | | 小計 | 1,037 | 961 | -7.3% |
| | ı | CO ₂ 小計 | 1,542 | 1,414 | -8.3% |
| CO ₂ 以外 | CO ₂ 以外の温室効果ガス | | | 62 | 8.7% |
| | 温室効果 | ガス合計 | 1,599 | 1,475 | -7.7% |

注)四捨五入により計算が合わないことがある。

出典:「温室効果ガス排出量等の調査結果」(名古屋市、平成30年)

3-1-4 動植物、生態系及び緑地の状況

(1) 動物

ア 動物相

名古屋市内で確認された動物種を以下に示す。

出典:「「名古屋市版レッドリスト 2015」・「レッドデータブックなごや 2015」」(名古屋市ウェブサイト) 「名古屋の野鳥 2014」(名古屋市、平成 28 年)

(ア) 哺乳類

カヤネズミ、ニホンノウサギ、タヌキ等 8 目 19 科 30 種が確認されている。 この中には、外来種であるヌートリア等も含まれている。

(イ) 鳥類

マガモ、ゴイサギ、セイタカシギや、オオタカ、サシバ等の猛禽類等 20 目 59 科 270 種が確認されている。

また、「名古屋の野鳥 2014」(名古屋市、平成 28 年)によると、天白川緑地においてカルガモ、ムクドリ 等 46 種が、見晴台笠寺公園でヒヨドリ、カラワヒワ等 38 種が確認されている。

(ウ) 爬虫類

ニホンイシガメ、ニホンヤモリ、シマヘビ等 2 目 8 科 13 種が確認されている。 この中には、外来種であるミシシッピアカミミガメ等が含まれている。

(エ) 両生類

トノサマガエル、アカハライモリ等 2 目 6 科 11 種が確認されている。 この中には、外来種であるウシガエル等が含まれている。

(才) 魚類

ドジョウ、コイ、ニホンウナギ等 9 目 24 科 70 種が確認されている。 この中には、外来種であるオオクチバス(ブラックバス)、ブルーギル、カダヤシ等が含まれている。

(力) 昆虫類

トンボ類(ギンヤンマ、シオカラトンボ等)、ユスリカ類、バッタ類(トノサマバッタ、クツワムシ等)、チョウ類(アオスジアゲハ、モンシロチョウ、キマダラセセリ等)、コウチュウ類(カブトムシ、ノコギリクワガタ、ゴマダラカミキリ等)、ハチ類(ニホンミツバチ、オオスズメバチ等)、セミ類等 24 目 351 科 3,708 種が確認されている。

(キ) クモ類

ジグモ、オナガグモ等 41 科 334 種が確認されている。

(ク) 貝類、甲殼類

カニは、サワガニ、モクズガニ等1目12科43種が確認されている。

貝類は、ヤマトシジミ、タイラギ、マイマイ類(マメマイマイ、ヒラベッコウ等)、オオタニシ、カワニナ等 15 目 61 科 149 種が確認されている。

イ 重要な動物種

(ア) 重要な動物種の選定根拠等

「レッドデータブックなごや 2015 動物編」(名古屋市、平成 27 年)等に掲載された、調査地域周辺で確認された重要な動物種を選定した。

重要な動物種の選定根拠を表 3-1-26 に、選定根拠に定められた選定基準を表 3-1-27 に示す。また、重要な動物種を確認するために用いた文献を表 3-1-28 に示す。

表 3-1-26 重要な動物種の選定根拠

| | | 法令及び文献 | 選定根拠 |
|---------|-----|--|---|
| | 1 | 「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) | ・特別天然記念物 ・国指定天然記念物 |
| 法 | 2 | 「愛知県文化財保護条例」(昭和 30 年愛知県条例第 24 号) | •県指定天然記念物 |
| 令に | 3 | 「名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例」 (昭和 47 年名古屋市条例第 4 号) | •市指定天然記念物 |
| よる指定 | 4 | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)」(平成4年法律第75号) | ・国際希少野生動物種・国内希少野生動物種・特定国内希少野生動物種・緊急指定種 |
| | (5) | 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」 (昭和 48 年愛知県条例第 3 号) | •指定希少野生動物種 |
| | 6 | 「環境省レッドリスト 2018」 (環境省、平成 30 年) | ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| 文献による指定 | 7 | 「レッドリストあいち 2015」(愛知県、平成 27 年) | ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| | 8 | 「名古屋市版レッドリスト 2015」(名古屋市、平成 27 年) | ・絶滅(EX) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) |

注) 表中の①~⑧は、表 3-1-27 の区分、表 3-1-29 の指定状況に対応する。

表 3-1-27 重要な動物種の選定基準

| | | 区分 | 選定基準 | | | | | |
|---|-----------------------|--|---|--|--|--|--|--|
| | 特別天然記 | 念物 | 国指定天然記念物のうち特に重要な記念物について指定する。 | | | | | |
| 1 | 国指定天然 | 記念物 | 国指定文化財のうち、動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)で、我が国にとって学術上価値の高いもの。 | | | | | |
| 2 | 県指定天然 | 記念物 | 県指定文化財のうち、動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)で、県にとって学術上価値の高いもの。 | | | | | |
| 3 | 市指定天然 | 記念物 | 市指定文化財のうち、動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)で、市にとって学術価値の高いもの。 | | | | | |
| | 国内希少野 | 生動物種 | その個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生動物の種であって、政令で定めるもの。 | | | | | |
| | 国際希少野 | 生動物種 | 国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動物の種 (国内希少野生動物種を除く)であって、政令で定めるもの。 | | | | | |
| 4 | 特定国内希 | 少野生動物種 | 次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生動物種であって、政令で定めるものをいう。 一 商業的に個体を繁殖させることができるものであること。 二 国際的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。 | | | | | |
| | 緊急指定種 | | 環境大臣が、国内希少野生動物種及び国際希少野生動物種以外の野生動物種の種の保存を特に緊急に図る必要があると認めるときに指定する種 | | | | | |
| 5 | 指定希少野 | 生動物種 | 県内に生息し、又は生息する絶滅のおぞれのあるものとして以下のいずれかに該当する 野生動物の種(亜種又は変種がある種にあっては、その亜種又は変種とする。)のうち、 特に保護を図る必要があると認められるもの。 一種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ない野生動物種 こその種の個体の数が著しく減少しつつある野生動物 三その種の個体の主要な生息地又は生息地が減少しつつある野生動物 四その種の個体の生息又は生息の環境が著しく悪化しつつある野生動物 五上記に掲げるもののほか、その種の存続に支障を来す事情がある野生動物 | | | | | |
| | 絶滅(EX) | | 我が国では既に絶滅したと考えられる種 | | | | | |
| | 野生絶滅(E | W) | 飼育・栽培下でのみ存続している種 | | | | | |
| | 絶滅危惧 絶滅危惧種 I 類(CR+EN) | | 絶滅の危機に瀕している種 | | | | | |
| | | 絶滅危惧 I A 類(CR) | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 | | | | | |
| 6 | | 絶滅危惧 I B 類(EN) | IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 | | | | | |
| | | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) | 絶滅の危険が増大している種 | | | | | |
| | 準絶滅危惧 | (NT) | 存続基盤が脆弱な種 | | | | | |
| | 情報不足(D | D) | 評価するだけの情報が不足している種 | | | | | |
| | 地域個体群 | | 地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。 | | | | | |
| | | 野生絶滅(EW) | 愛知県ではすでに絶滅したと考えられる種。野生では絶滅し、飼育・栽培下でのみ存続 している種。 | | | | | |
| | 絶滅危惧 | 絶滅危惧種 I 類(CR+EN) | 絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。 | | | | | |
| | | 絶滅危惧 I A 類(CR) | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 | | | | | |
| | | 絶滅危惧 I B 類(EN) | IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 | | | | | |
| 7 | | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) | 絶滅の危険が増大している種 | | | | | |
| | 準絶滅危惧 | (NT) | 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては 「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。 | | | | | |
| | 情報不足(D | D) | 評価するだけの情報が不足している種 | | | | | |
| | 地域個体群 | (LP) | その種の国内における生息状況に鑑み、愛知県において特に保全のための配慮が必要 と考えられる特徴的な個体群 | | | | | |
| | 国リスト | | 環境省レッドリストに記載されているが、愛知県において上記の要件に該当しない種。 | | | | | |
| | 絶滅(EX) | | 名古屋市ではすでに絶滅したと考えられる種。 | | | | | |
| | 絶滅危惧 | 絶滅危惧 I A 類(CR) | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 | | | | | |
| | | 絶滅危惧 I B 類(EN) | IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 | | | | | |
| | | 16 - B - C - C - C - C - C - C - C - C - C | | | | | | |
| 8 | | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) | 1 細滅の加速が増入している種 | | | | | |
| 8 | 準絶滅危惧 | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) (NT) | 絶滅の危険が増大している種 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては 「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。 | | | | | |

注) 表中の①~⑧は、表 3-1-26の法令及び文献、表 3-1-29の指定状況に対応する。

表 3-1-28 重要な動物種の確認文献

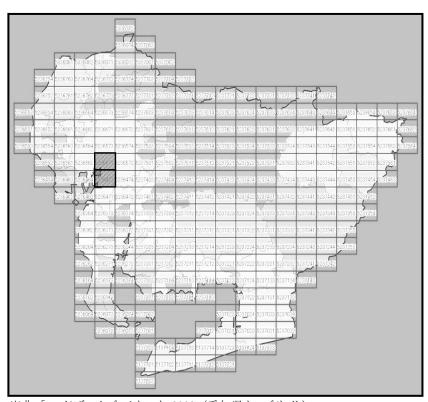
| | 文献 | 対象となる種 |
|---|--|--------------------------------|
| A | 「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県ウェブサイト) | 調査地域が含まれるメッシュ(2 メッシュ)で確認された動物種 |
| В | 「レッドデータブックなごや 2015 動物編」(名古屋市、 平成 27 年) | 南区で確認された動物種 |
| С | 「名鉄名古屋本線(山崎川~天白川間)連続立体交差 事業環境調査委託報告書」(名古屋市、平成22年) | 現地調査で確認された動物種のうち、重要種と分類された種 |

表 3-1-28 の文献Aにおいて示している重要な動物種を把握した調査範囲は調査地域が含まれる 2 つのメッシュとした。文献Aにおいて重要な動物種の調査範囲を図 3-1-19 に示す。

なお、表 3-1-32 の文献Aにおいて示している重要な植物種の把握範囲も同様の調査範囲となっている。

また、表 3-1-28 の文献Bにおいて示している重要な動物種を把握した調査範囲は事業実施想定区域が位置する南区とした。

表 3-1-28 の文献 C における調査範囲は、本事業の調査地域と概ね同範囲のため、記載された全ての重要種を対象とした。



出典:「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県ウェブサイト)

図 3-1-19 重要な動植物種の文献調査範囲

(イ) 重要な動物種

「(ア) 重要な動物種の選定根拠等」から選定した重要な動物種の状況について、区分ごとに整理したものを以下に示す。

a 哺乳類

調査地域周辺における重要な動物種(哺乳類)の状況を表 3-1-29(1)に示す。 調査地域周辺では、1 目 1 科 1 種が確認されている。

b 鳥類

調査地域周辺における重要な動物種(鳥類)の状況を表 3-1-29(2)に示す。 調査地域周辺では、5 目 10 科 17 種が確認されている。

c 爬虫類

調査地域周辺における重要な動物種(爬虫類)の状況を表 3-1-29(3)に示す。 調査地域周辺では、2 目 3 科 3 種が確認されている。

d 両生類

調査地域周辺における重要な動物種(両生類)の状況を表 3-1-29(4)に示す。 調査地域周辺では、1 目 1 科 1 種が確認されている。

e 魚類

調査地域周辺における重要な動物種(魚類)の状況を表 3-1-29(5)に示す。 調査地域周辺では、5 目 6 科 7 種が確認されている。

f昆虫類

調査地域周辺における重要な動物種(昆虫類)の状況を表 3-1-29(6)に示す。 調査地域周辺では、4 目 5 科 5 種が確認されている。

gクモ類

調査地域周辺における重要な動物種(クモ類)の状況を表 3-1-29(7)に示す。 調査地域周辺では、1 目 2 科 3 種が確認されている。

h カニ類

調査地域周辺における重要な動物種(カニ類)の状況を表 3-1-29(8)に示す。 調査地域周辺では、1 目 2 科 4 種が確認されている。

i 貝類

調査地域周辺における重要な動物種(貝類)の状況を表 3-1-29(9)に示す。 調査地域周辺では、1 目 1 科 1 種が確認されている。

表 3-1-29(1) 重要な動物種(哺乳類)の状況

| 目名 | 到力 | 廷力 | 指定状況 | | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---|---|---|-----|---|---|----|
| | 科名 | 種名 | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 |
| 食肉(ネコ)目 | イヌ科 | タヌキ | | | | | | | | NT |
| 1 目 | 1科 | 1種 | _ | _ | _ | _ | _ | _ | _ | 1種 |

表 3-1-29(2) 重要な動物種(鳥類)の状況

| | TV b | ŒA | | | | 指定 | 状況 | | | |
|-------|----------|---------|---|---|---|----|-----|------|-----------------------------------|------|
| 目名 | 科名 | 種名 | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 |
| ペリカン目 | サギ科 | ミゾゴイ | | | | | | VU | ●EN △NT | EN |
| | | チュウサギ | | | | | | NT | ■国リ△国リ | NT |
| チドリ目 | チドリ科 | イカルチドリ | | | | | | | ●VU ◇NT | NT |
| | | シロチドリ | | | | | | VU | ●VU ◇NT | NT |
| | | メダイチドリ | | | | | | | | NT |
| | シギ科 | オグロシギ | | | | | | | △VU | VU |
| | | オバシギ | | | | | | | △NT | NT |
| | カモメ科 | コアジサシ | | | | | | VU | ●EN △NT | VU |
| タカ目 | ミサゴ科 | ミサゴ※ | | | | | | NT | ●VU | NT |
| | タカ科 | ハチクマ | | | | | | NT | ●VU ◇NT | VU |
| | | ハイタカ | | | | | | NT | ◇国リ | NT |
| | | オオタカ | | | | | | NT | ●NT ◇NT | NT |
| | | サシバ | | | | | | VU | ●VU △NT | VU |
| ハヤブサ目 | ハヤブサ科 | ハヤブサ | | | | | | VU | ●VU ◇NT | VU |
| スズメ目 | サンショウクイ科 | サンショウクイ | | | | | | VU | ■国リ△国リ | NT |
| | アトリ科 | コイカル | | | | | | | | VU |
| | ヒタキ科 | コルリ※ | | | | | | | ●NT | |
| 5 目 | 10 科 | 17 種 | _ | _ | _ | _ | _ | 11 種 | 15 種 | 16 種 |

表 3-1-29(3) 重要な動物種(爬虫類)の状況

| 日夕 | 科名 | 種名 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|-----|---------|---------|-------|---|---|----|----|----|----|----|
| 目名 | 件'石 | 性石 | ① ② ③ | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | |
| カメ目 | イシガメ科 | クサガメ | | | | | | | | DD |
| | スッポン科 | ニホンスッポン | | | | | | DD | DD | DD |
| 有鱗目 | ナミヘビ科 | シロマダラ | | | | | | | DD | VU |
| 2 目 | 3 科 | 3 種 | _ | _ | _ | _ | | 1種 | 2種 | 3種 |

表 3-1-29(4) 重要な動物種(両生類)の状況

| 日夕 | 科名 | 種名 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|-------------------|----------|------------|---|---|---|----|-----|-----------------|----|----|
| 目名 | 件泊 | (里行 | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) | ⑥ VU 1種 1 | 7 | 8 |
| 有尾目(サンショウ ウオ目) | サンショウウオ科 | カスミサンショウウオ | | | | | | VU | EN | CR |
| 1 目 | 1科 | 1種 | _ | _ | _ | _ | _ | 1種 | 1種 | 1種 |

表 3-1-29(5) 重要な動物種(魚類)の状況

| 日夕 | 科名 | 種名 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|------|--------|--------|---|---|---|----|----|----|----|----|
| 目名 | 件名 | 性石 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| ウナギ目 | ウナギ科 | ニホンウナギ | | | | | | EN | EN | EN |
| ナマズ目 | ナマズ科 | ナマズ | | | | | | | | NT |
| サケ目 | アユ科 | アユ | | | | | | | | VU |
| ダツ目 | メダカ科 | ミナミメダカ | | | | | | | NT | VU |
| スズキ目 | カワアナゴ科 | カワアナゴ | | | | | | | NT | VU |
| | ハゼ科 | スミウキゴリ | | | | | | | | NT |
| | | ウキゴリ | | | | | | | | NT |
| 5 目 | 6 科 | 7種 | _ | _ | _ | _ | _ | 1種 | 3種 | 7種 |

表 3-1-29(6) 重要な動物種(昆虫類)の状況

| | 利力 | 廷力 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|--------|---------|----------|----|---|---|----|----|----|----|----|
| 目名 | 科名 | 種名 | 1) | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| ゴキブリ目 | オオゴキブリ科 | オオゴキブリ | | | | | | | NT | NT |
| カメムシ目 | タイコウチ科 | ヒメタイコウチ | | | | | | | NT | VU |
| | コオイムシ科 | タガメ | | | | | | VU | EN | EX |
| コウチュウ目 | クワガタムシ科 | ヒラタクワガタ | | | | | | | | NT |
| チョウ目 | アゲハチョウ科 | ジャコウアゲハ※ | | | | | | | | NT |
| 4 目 | 5 科 | 5 種 | _ | _ | _ | _ | _ | 1種 | 3種 | 5種 |

表 3-1-29(7) 重要な動物種(クモ類)の状況

| | | . , , | | - 75 175 1 | | | | | | |
|-----|---------------------------------------|------------|----|------------|---|----|-----|----|-----|----|
| 目名 | 科名 | 種名 | | | | 指定 | 状況 | | | |
| 日泊 | 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | (里石 | 1) | 2 | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 |
| クモ目 | ジグモ科 | ワスレナグモ | | | | | | NT | VU | CR |
| | トタテグモ科 | キノボリトタテグモ | | | | | | NT | VU | EN |
| | | キシノウエトタテグモ | | | | | | NT | VU | CR |
| 1 目 | 2 科 | 3 種 | _ | _ | _ | _ | _ | 3種 | 3 種 | 3種 |

表 3-1-29(8) 重要な動物種(カニ類)の状況

| 目名 | 科名 | 種名 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|-----|-------|--------|---|---|---|----|-----|---|---|----|
| 日石 | 件名 | (里石 | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 |
| 十脚目 | イワガニ科 | モクズガニ | | | | | | | | NT |
| | | アカテガニ | | | | | | | | VU |
| | スナガニ科 | コメツキガニ | | | | | | | | NT |
| | | チゴガニ | | | | | | | | NT |
| 1 目 | 2 科 | 4種 | _ | _ | _ | _ | _ | _ | _ | 4種 |

表 3-1-29(9) 重要な動物種(貝類)の状況

| 日夕 | 3 1 A | 任 夕 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|--------------|--------------|------------|----|---|---|----|----|---|---|----|
| 目名 | 科名 | 種名 | 1) | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| マルスダレ ガイ目 | シジミ科 | ウエジマメシジミ | | | | | | | | EN |
| 1 目 | 1科 | 1種 | _ | _ | | _ | _ | _ | | 1種 |

- 注)1. 指定状況の①~⑧は、表 3-1-26、表 3-1-27 及び以下に示す法令及び文献の番号と一致し、当該法令及び文献における指定状況を示している。
 - ①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)に基づく特別天然記念物、国指定天然記念物
 - ②「愛知県文化財保護条例」(昭和30年愛知県条例第24号)に基づく県指定天然記念物
 - ③「名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例」(昭和47年名古屋市条例第4号)に基づく市指定天然記念物
 - ④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国際希少野生動物種、国内希少野生動物種、特定国内希少野生動物種、緊急指定種
 - ⑤「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)に基づく指定希少野生動物種
 - ⑥「環境省レッドリスト2018」(環境省、平成30年)の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他の無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等)
 - ⑦「レッドリストあいち 2015」(愛知県、平成 27 年)の掲載種
 - ⑧「名古屋市版レッドリスト2015」(名古屋市、平成27年)の掲載種
 - 2. 各指定状況の内容は、略称であり、それぞれ以下のことを示している。
 - ①特天:特別天然記念物、 国天:国指定天然記念物
 - ②県天:県指定天然記念物
 - ③市天:市指定天然記念物
 - ④国際:国際希少野生動物種、国内:国内希少野生動物種、特国内:特定国内希少野生動物種、 緊急:緊急指定種
 - ⑤指希:指定希少野生動物種
 - ⑥EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A類、
 - EN: 絶滅危惧 I B類、VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群
 - ②EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、
 - VU: 絶滅危惧Ⅱ類、NT: 準絶滅危惧、DD: 情報不足、LP: 地域個体群、国リ: 国リスト掲載種、
 - ●:繁殖、△:通過、◇:越冬
 - ⑧EX:絶滅、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、国リ:国リスト掲載種、県リ:県リスト掲載種
 - 3. ※: 平成 18 年度現地調査において確認された種を示す。
- 4. カスミサンショウウオとトウキョウサンショウウオは同一種と考えられており、現在はカスミサンショウウオと整理されている。 出典:「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県ウェブサイト)

「レッドデータブックなごや 2015 動物編」(名古屋市、平成 27年)

「名鉄名古屋本線(山崎川~天白川間)連続立体交差事業環境調査委託報告書」(名古屋市、平成22年)

ウ 注目すべき生息地等

調査地域周辺において、注目すべき生息地等は確認されていない。

(2) 植物

ア 植物相

調査地域周辺における現存植生図を図 3-1-20 に示す。

調査地域周辺は植生が少なく、寺社等のシイ・カシ二次林、ケネザサーコナラ群集等がみられる。

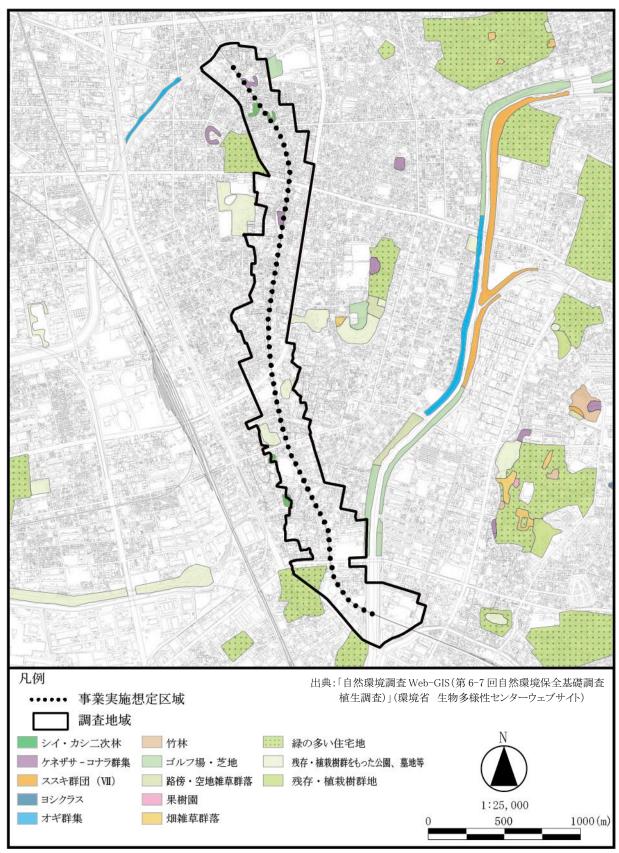


図 3-1-20 現存植生図

イ 重要な植物種

(ア) 重要な植物種の選定根拠等

「レッドデータブックなごや 2015 植物編」(名古屋市、平成 27 年)等に掲載された、調査地域周辺で確認された重要な植物種を選定した。

重要な植物種の選定根拠を表 3-1-30 に、選定根拠に定められた選定基準を表 3-1-31 に示す。また、重要な植物種を確認するために用いた文献を表 3-1-32 に示す。

なお、調査範囲は(1)動物 イ重要な動物種 (7)重要な動物種の選定根拠等(3.2-36 ページ)のとおりである。

表 3-1-30 重要な植物種の選定根拠

| | | 法令及び文献 | 選定根拠 |
|--------|---|--|--|
| | 1 | 「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) | ・特別天然記念物 ・国指定天然記念物 |
| 法 | 2 | 「愛知県文化財保護条例」(昭和 30 年愛知県条例第 24 号) | •県指定天然記念物 |
| 令に | 3 | 「名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例」 (昭和 47 年名古屋市条例第 4 号) | ・市指定天然記念物 |
| よる指定 | 4 | 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 (種の保存法)」(平成4年法律第75号) | ・国際希少野生植物種 ・国内希少野生植物種 ・特定国内希少野生植物種 ・緊急指定種 |
| | 5 | 「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」 (昭和 48 年愛知県条例第 3 号) | ·指定希少野生植物種 |
| 文 | 6 | 「環境省レッドリスト 2018」(環境省、平成 30 年) | ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・地域個体群(LP) |
| 献による指定 | 7 | 「レッドリストあいち 2015」(愛知県、平成 27 年) | ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) |
| | 8 | 「名古屋市版レッドリスト 2015」(名古屋市、平成 27 年) | ・絶滅(EX) ・絶滅危惧 I A類(CR) ・絶滅危惧 I B類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) |

注) 表中の①~⑧は、表 3-1-31 の区分、表 3-1-33 の指定状況に対応する。

表 3-1-31 重要な植物種の選定基準

| | | 区分 | 選定基準 | | | | | | | |
|-----|----------|------------------|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | 特別天然記 | 念物 | 国指定天然記念物のうち特に重要な記念物について指定する。 | | | | | | | |
| 1 | 国指定天然 | 記念物 | 国指定文化財のうち、植物(自生地を含む。)で、我が国にとって学術上価値の高いもの。 | | | | | | | |
| 2 | 県指定天然 | a A Ma | 国指定文化財のうち、植物(自生地を含む。)で、我が国にとって学術上価値の高いの。 県指定文化財のうち、植物(自生地を含む。)で、我が国にとって学術上価値の高いもの。 県指定文化財のうち、植物(自生地を含む。)で、東にとって学術上価値の高いもの。 市指定文化財のうち、植物(自生地を含む。)で、市にとって学術上価値の高いものとの個体が本邦に生息し又は生育する絶滅のおそれのある野生植物の種であって今で定めるもの。 国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生植物の種であって、安全で定めるもの。 (国内希少野生植物種を除く)であって、安全で定めるもの。 次に掲げる要件のいずれにも該当する国内希少野生植物種であって、政令で定めるもの。 一商業的に協力して種の保存を図ることとされているものでないこと。 環境大臣が、国内希少野生植物種及び国際希少野生植物種以外の野生植物の種が生態のに協力して経の保存を図ることとされているものでないこと。 現境大臣が、国内希少野生植物種及び国際系少野生植物種以外の野生植物の種が、国際のに協力して経の保存を図ることとされているものでないこと。 現境大臣が、国内者か野生植物を石とといれているものでないこと。 現境大臣が、国内な少野生植物を石とといまれているものとて以下のいずれかに該当野生植物の種(亜種又は変種があるを認めるもの)・一種の存続して変してある野生植物三々の種の個体の数が著しく歳少しつつある野生植物三々の種の個体の数が著しく歳少しつつある野生植物三々の種の個体の主要な生息地又は生息の環境が著しく悪化しつるる野生植物生の毛に混合が生き、は生息の環境が高く悪化しつるる野生植物生の毛に混合で生き、おは既にとき、大田の目が、大田を情報が大き、大田の目が、大田を開始を表している種の質に対している種と表している種と表している種、とく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 愛知県ではずでに絶滅したと考えられる種、野生では絶滅し、飼育・栽培下のみる種、別在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する。会野性での存続が国難だもの。 要知はことが経過しないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 類(VU) 絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する。会野生での存続が国難だもの。現在の状態をもたらした上担要因が引き続き作用する。のまたな様に関している種、現在のていまがに発動したいが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 類(CR) ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 環館ないアリンドに記載されている種。 | | | | | | | |
| (3) | 市指定天然 | | | | | | | | | |
| (3) | | | | | | | | | | |
| | 国内希少野 | 生植物種 | 令で定めるもの。 | | | | | | | |
| | 国際希少野 | 生植物種 | (国内希少野生植物種を除く)であって、政令で定めるもの。 | | | | | | | |
| 4 | 特定国内希 | 少野生植物種 | のをいう。 一 商業的に個体を繁殖させることができるものであること。 | | | | | | | |
| | 緊急指定種 | | 環境大臣が、国内希少野生植物種及び国際希少野生植物種以外の野生植物の種の保 | | | | | | | |
| (5) | 指定希少野 | 生植物種 | 種の存続に支障を来す程度にその種の個体の数が著しく少ない野生植物こ その種の個体の数が著しく減少しつつある野生植物三 その種の個体の主要な生息地又は生息地が減少しつつある野生植物四 その種の個体の生息又は生息の環境が著しく悪化しつつある野生植物 | | | | | | | |
| | 絶滅(EX) | | | | | | | | | |
| | 野生絶滅(E | W) | 飼育・栽培下でのみ存続している種 | | | | | | | |
| | 絶滅危惧 | 絶滅危惧種 I 類(CR+EN) | 絶滅の危機に瀕している種 | | | | | | | |
| | 絶滅危惧 | 絶滅危惧 I A 類(CR) | | | | | | | | |
| (6) | | 絶滅危惧 I B 類(EN) | | | | | | | | |
| | | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) | | | | | | | | |
| | 準絶滅危惧 | | | | | | | | | |
| | | | 14-10-20-20-20-20-20-20-20-20-20-20-20-20-20 | | | | | | | |
| | 情報不足(D | | | | | | | | | |
| | 地域個体群 | (LP) | | | | | | | | |
| | 絶滅(EX)•野 | 野生絶滅(EW) | している種。 | | | | | | | |
| | 絶滅危惧 | 絶滅危惧種 I 類(CR+EN) | 合、野生での存続が困難なもの。 | | | | | | | |
| | | 絶滅危惧 I A 類(CR) | ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。 | | | | | | | |
| 7 | | 絶滅危惧 IB類(EN) | IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 | | | | | | | |
| | | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) | 絶滅の危険が増大している種。 | | | | | | | |
| | 準絶滅危惧 | (NT) | 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては 「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。 | | | | | | | |
| | 情報不足(D | D) | 評価するだけの情報が不足している種。 | | | | | | | |
| | 国リスト | | 環境省レッドリストに記載されているが、愛知県において上記の要件に該当しない種。 | | | | | | | |
| | 絶滅(EX) | | | | | | | | | |
| | 絶滅危惧 | 絶滅危惧 I A 類(CR) | | | | | | | | |
| | | 絶滅危惧 I B 類(EN) | IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 | | | | | | | |
| 8 | | 絶滅危惧Ⅱ類(VU) | 絶滅の危険が増大している種。 | | | | | | | |
| | 準絶滅危惧 | | 存続基盤が脆弱な種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては 「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。 | | | | | | | |
| | 情報不足(D | D) | 評価するだけの情報が不足している種。 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | |

注) 表中の①~⑧は、表 3-1-30 の法令及び文献、表 3-1-33 の指定状況に対応する。

表 3-1-32 重要な植物種の確認文献

| | 文献 | 対象となる種 |
|---|--|--------------------------------|
| A | 「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県ウェブサイト) | 調査地域が含まれるメッシュ(2 メッシュ)で確認された植物種 |
| В | 「自然環境調査 Web-GIS」(環境省ウェブサイト) | 調査地域周辺に存在する巨樹・巨木林 |
| С | 「レッドデータブックなごや 2015 植物編」(名古屋市、 平成 27 年) | 南区で確認された植物種 |
| D | 「名鉄名古屋本線(山崎川~天白川間)連続立体交差 事業環境調査委託報告書」(名古屋市、平成22年) | 現地調査で確認された植物種のうち、重要種と分類された種 |

(イ) 重要な植物種

「(ア) 重要な植物種の選定根拠等」より選定した重要な植物種の状況について、区分ごとに整理したものを以下に示す。

a 被子植物

事業実施想定区域における重要な植物種(被子植物)の状況を表 3-1-33(1)~(2)に示す。調査地域周辺では、36 科 58 種が確認されている。

b シダ植物

事業実施想定区域における重要な植物種(シダ植物)の状況を表 3-1-33(3)に示す。 調査地域周辺では、3 科 3 種が確認されている。

cコケ植物

調査地域周辺における重要な植物種(コケ植物)の状況を表 3-1-33(4)に示す。 調査地域周辺では、1 科 1 種が確認されている。

表 3-1-33(1) 重要な植物種(被子植物)の状況

| TV A | 任力 | | | | 指定 | 状況 | | | |
|-------------|-----------|---|---|----|----|-----|----|----|----|
| 科名 | 種名 | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 |
| イグサ科 | イヌイ | | | | | | | EN | |
| イネ科 | ウキシバ | | | | | | | NT | |
| | ウンヌケ | | | | | | VU | NT | |
| | ヒメコヌカグサ | | | | | | NT | 国リ | |
| | ヒメタイヌビエ | | | | | | | EN | |
| イバラモ科 | イトトリゲモ | | | | | | NT | 国リ | |
| オモダカ科 | アギナシ | | | | | | NT | 国リ | |
| カヤツリグサ科 | セイタカハリイ | | | | | | | VU | |
| | ミカワシンジュガヤ | | | | | | VU | VU | |
| シバナ科 | シバナ | | | | | | NT | NT | |
| トチカガミ科 | トチカガミ | | | | | | NT | EN | |
| | ミズオオバコ | | | | | | VU | 国リ | |
| ヒルムシロ科 | ヒルムシロ | | | | | | | NT | |
| | リュウノヒゲモ | | | | | | NT | 国リ | |
| ホシクサ科 | シラタマホシクサ | | | | | | VU | VU | |
| ラン科 | キンラン | | | | | | VU | NT | |
| 7 . 11 | サギソウ | | | | | | NT | VU | |
| アオイ科 | ハマボウ | | | | | | | VU | |
| アカザ科 | ハマアカザ | | | | | | | VU | |
| | マルバアカザ | | | | | | | NT | |
| アカバナ科 | ウスゲチョウジタデ | | | | | | NT | 国リ | |
| アブラナ科 | コイヌガラシ | | | | | | NT | 国リ | |
| アリノトウグサ科 | オグラノフサモ | | | | | | VU | CR | |
| オオバコ科 | トウオオバコ | | | | | | | EN | |
| オトギリソウ科 | スズサイコ | | | | | | NT | 国リ | |
| ガガイモ科 | キキョウ | | | | | | VU | VU | |
| キキョウ科 | ウスゲチョウジタデ | | | | | | | VU | |
| キク科 | ウラギク | | | | | | NT | 国リ | |
| | カセンソウ | | | | | | | EN | |
| キンポウゲ科 | ウマノアシガタ | | | | | | | | VU |
| クスノキ科 | クスノキ | | | 市天 | | | | | |
| | ニッケイ | | | | | | NT | 国リ | |
| | シロダモ※ | | | | | | | , | NT |
| グミ科 | アリマグミ | | | | | | | VU | |
| <u></u> | イヌノフグリ | | | | | | VU | 国リ | |
| | オオアブノメ | | | | | | VU | VU | |
| | カワヂシャ | | | | | | NT | 国リ | 国リ |
| <u>シ</u> ソ科 | シマジタムラソウ | | | | | | VU | NT | |
| | ミゾコウジュ | | | | | | NT | 国リ | |
| スイレン科 | ヒメコウホネ | | | | | | VU | EN | |
| タデ科 | アキバチャナギ | | | | | | | | VU |
| | コギシギシ | | | | | | VU | 国リ | VU |

表 3-1-33(2) 重要な植物種(被子植物)の状況

| 到 5 | | 指定状況 | | | | | | | |
|------------|------------|------|---|----|-----|---|------|------|----|
| 科名 | 種名 | ① ② | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 | |
| タデ科 | サイコクヌカボ | | | | | | VU | NT | |
| | ナガバノウナギツカミ | | | | | | NT | NT | |
| タヌキモ科 | イヌタヌキモ | | | | | | NT | 国リ | |
| | コタヌキモ | | | | | | | CR | |
| | ムラサキミミカキグサ | | | | | | NT | NT | |
| ハイノキ科 | シロバイ※ | | | | | | | CR | |
| バラ科 | マメナシ | | | | | | EN | CR | |
| ヒユ科 | ホソバハマアカザ | | | | | | | | NT |
| マメ科 | イヌハギ | | | | | | VU | VU | |
| | オオバクサフジ | | | | | | | NT | |
| ミソハギ科 | エゾミソハギ | | | | | | | VU | |
| | ミズスギナ | | | | | | CR | EX | |
| | ミズマツバ | | | | | | VU | 国リ | |
| ミツガシワ科 | ガガブタ | | | | | | NT | NT | |
| ヤナギ科 | キヌヤナギ | | | | | | | NT | VU |
| ユキノシタ科 | ヤブサンザシ | | | | | | | VU | |
| 36 科 | 58 種 | _ | _ | 1種 | _ | _ | 35 種 | 53 種 | 7種 |

表 3-1-33(3) 重要な植物種(シダ植物)の状況

| 科名 | 種名 | | 指定状況 | | | | | | |
|-----------|------------|---|------|---|---|---|----|----|----|
| | 性 石 | 1 | 2 | | | | | 8 | |
| コバノイシカグマ科 | イシカグマ | | | | | | | NT | |
| サンショウモ科 | サンショウモ | | | | | | VU | CR | |
| メシダ科 | ウスバシケシダ | | | | | | VU | VU | |
| 3科 | 3 種 | _ | _ | _ | _ | _ | 2種 | 3種 | 1種 |

表 3-1-33(4) 重要な植物種(コケ植物)の状況

| 科名 | 種名 | 指定状況 | | | | | | | |
|-------|------------|------|---|---|---|-----|---|----|----|
| | | 1 | 2 | 3 | 4 | (5) | 6 | 7 | 8 |
| クサリゴケ | マルバヒメクサリゴケ | | | | | | | VU | VU |
| 1科 | 1種 | _ | _ | _ | _ | _ | _ | 1種 | 1種 |

- 注)1. 指定状況の①~⑧は、表 3-1-30、表 3-1-31 及び以下に示す法令及び文献の番号と一致し、当該法令及び文献における指定状況を示している。
 - ①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)に基づく特別天然記念物、国指定天然記念物
 - ②「愛知県文化財保護条例」(昭和30年愛知県条例第24号)に基づく県指定天然記念物
 - ③「名古屋市文化財の保存及び活用に関する条例」(昭和47年名古屋市条例第4号)に基づく市指定天然記念物
 - ④「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成 4 年法律第 75 号)に基づく国際希少野生植物種、国内希少野生植物種、特定国内希少野生植物種、緊急指定種
 - ⑤「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」(昭和48年愛知県条例第3号)に基づく指定希少野生植物種
 - ⑥「環境省レッドリスト 2018」(環境省、平成 30 年)の維管束植物、蘚苔類、藻類、地衣類、菌類
 - ⑦「レッドリストあいち 2015」(愛知県、平成 27 年)の掲載種
 - ⑧「名古屋市版レッドリスト 2015」(名古屋市、平成 27年)の掲載種
 - 2. 各指定状況の内容は、略称であり、それぞれ以下のことを示している。
 - ①特天:特別天然記念物、 国天:国指定天然記念物
 - ②県天:県指定天然記念物
 - ③市天:市指定天然記念物

- ④国際:国際希少野生植物種、国内:国内希少野生植物種、特国内:特定国内希少野生植物種 緊急:緊急指定種
- ⑤指希:指定希少野生植物種
- ⑥EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A類、

EN:絶滅危惧 I B類、 VU:絶滅危惧 II 類、 NT:準絶滅危惧

- ⑦EX:絶滅、EW:野生絶滅、CR+EN:絶滅危惧 I 類、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、国リ:国リスト掲載種
- ⑧EX:絶滅、CR:絶滅危惧 I A類、EN:絶滅危惧 I B類、VU:絶滅危惧 II 類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足、国リ:国リスト掲載種、県リ:県リスト掲載種
- 3. ラン科の「シラン」は、この地域では園芸個体の逸出であると考えられ、保全対象外である。
- 4. ※: 平成 18 年度現地調査において確認された種を示す。

出典:「レッドデータブックあいち 2009」(愛知県ウェブサイト)

「レッドデータブックなごや 2015 植物編」(名古屋市、平成 27年)

「名鉄名古屋本線(山崎川~天白川間)連続立体交差事業環境調査委託報告書」(名古屋市、平成22年)

「市指定文化財」(名古屋市ウェブサイト)

ウ 重要な植物群落等の状況

調査地域周辺における重要な植物群落等の状況は、表 3-1-34 及び図 3-1-21 のとおりである。

「第3回自然環境保全基礎調査愛知県自然環境情報図」によると、調査地域周辺において特定植物群落は報告されていない。

調査地域周辺の重要な植物群落等(巨樹・巨木林)として、村上社のクスノキが「第4回自然環境保全 基礎調査愛知県自然環境情報図」に示されている。なお、村上社のクスノキは名古屋市により天然記念 物に指定されている。

また、「保存樹及び保存樹林並びに緑のまちづくり条例」(平成17年名古屋市条例第39号)に基づく保存樹が調査地域周辺に存在している。

| | 樹木名 | 指定状況 | 所在地 |
|---|--------|---------------------------|------|
| 1 | クスノキ | 保存樹 | 熊野三社 |
| 2 | クスノキ | 保存樹 | 熊野三社 |
| 3 | ムクノキ | 保存樹 | 熊野三社 |
| 4 | クロガネモチ | 保存樹 | 個人 |
| 5 | クスノキ | 保存樹 | 西方院 |
| 6 | クスノキ | 保存樹 | 星宮社 |
| 7 | クスノキ | 保存樹 | 七所神社 |
| 8 | クスノキ | 保存樹 | 喚続神社 |
| 9 | クスノキ | 市指定天然記念物 第4回自然環境保全基礎調査 | 村上社 |

表 3-1-34 重要な植物群落等の状況

出典:「自然環境調査 Web-GIS」(環境省生物多様性センターウェブサイト)

「第4回自然環境保全基礎調査愛知県自然環境情報図」(環境庁、平成7年)

「市指定文化財」(名古屋市ウェブサイト)

「保存樹・保存樹林」(名古屋市ウェブサイト)

注) 樹木名番号は、図 3-1-21 に対応する。

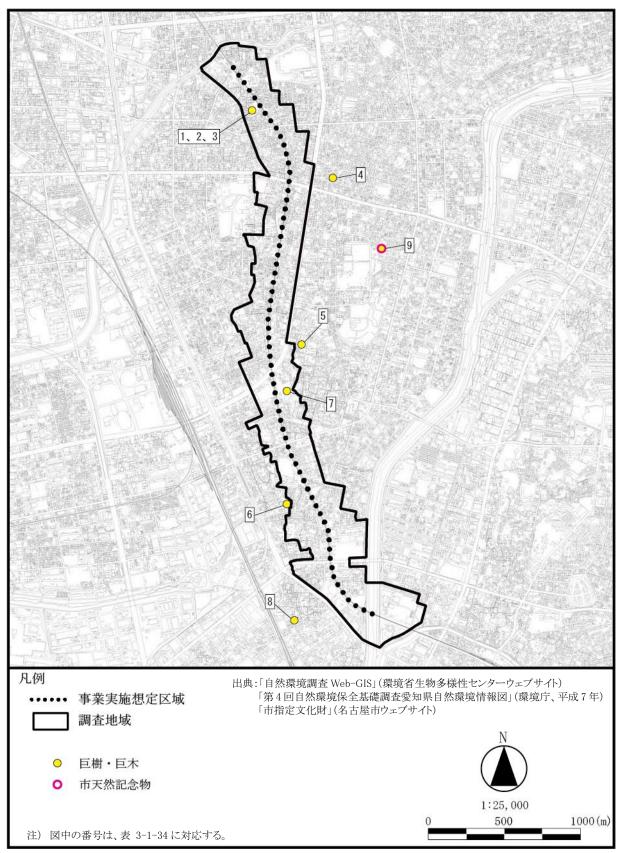


図 3-1-21 重要な植物群落等(巨樹・巨木林)の状況

(3) 生態系

植生自然度区分基準を表 3-1-35 に示す。

調査地域周辺における植生としては、市街地、工場地帯、緑の多い住宅地が広がっており自然植生度1~3の自然度の低い植生が多く分布している。ケネザサーコナラ群集、ススキ群団など自然植生度4~7の植生が、部分的にみられる。

事業実施想定区域及び周辺の自然環境は、天白川の河川敷、社寺林、都市公園等にまとまった植生が みられるのみである(図 3-1-20 現存植生図参照)。

ア 上位性

「レッドデータブックなごや 2015 動物編」によると、調査地域周辺において重要な動物種として鳥類のミサゴが確認されているが、調査地域周辺には猛禽類の繁殖地、休息地となる環境が存在しないことから、調査地域周辺は重要な生息地として利用されてはいないと考えられる。

イ 典型性

調査地域周辺では、天白川沿いのススキ群団、オギ群集や社寺林のシイ・カシ二次林が典型的な植生としてみられる。こうした環境下には様々な動物が生息しており、川沿いにはサギ類、カモ類等、社寺林にはハト、トカゲ、セミ等がみられ、調査地域周辺における典型的な種であるといえる。

表 3-1-35 植生自然度区分基準

| 植生自然度 | 区分基準 |
|-------|---|
| 10 | 高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち、単層の植物社会を形成する地区 |
| 9 | エゾマツートドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち低木林、高木林の植物社会を形成する地区 |
| 8 | ブナーミズナラ群集、シイ・カシ二次林等、代償植生であっても特に自然植生に近い地区 |
| 7 | クリーミズナラ群落、コナラ群落等、繰り返し伐採されている一般に二次林と呼ばれている代償植生地区 |
| 6 | 常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地、アカメガシワ等の低木林 |
| 5 | ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原、伝統的な管理を受けて持続している構成種の多い草原 |
| 4 | シバ群落等の背丈の低い草原、伐採直後の草原、路傍・空地雑草群落、放棄畑雑草群落 |
| 3 | 竹林、外来種の植林・二次林・低木林、果樹園、茶畑、残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 |
| 2 | 外来種の草原、畑、水田等の耕作地、緑の多い住宅地 |
| 1 | 市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区 |

出典: 「1/2.5 万植生図を基にした植生自然度について」(平成 28 年環生多発第 1603312 号)

(4) 緑地

緑地の状況を図 3-1-22 に示す。

調査地域の緑地として、天白川緑地や特別緑地保全地区、小規模な公園が分布している。



図 3-1-22 緑地の状況

3-1-5 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場の状況

(1) 景観

「第3回自然環境保全基礎調査 愛知県自然環境情報図」(環境庁、平成元年)によると、調査地域周辺に特定植物群落及び自然景観資源は存在しない。

名古屋市の「都市景観条例」(昭和 59 年名古屋市条例第 17 号)に基づく都市景観重要建築物等指定物件が調査地域周辺に存在する。

景観資源を表 3-1-36 及び図 3-1-23 に示す。

表 3-1-36 景観資源(都市景観重要建築物等指定物件)

| 都市景観重要建築物等指定物件 | 概要 |
|-------------------------------|---|
| 笠覆寺(笠寺観音)仁王門·本堂· 西門·多宝塔·鐘楼 | 笠寺縁起(かさでらえんぎ)によれば、天平8年(736年)浜に流れ着いた 霊木に僧善光が十一面観音を刻み、小堂を建てて安置したことに始まった。尾張四観音の一つで、仁王門・多宝塔・鐘楼・本堂等見事な伽藍(がらん)の数々を配し、四観音の中でもひときわ荘厳である。 |
| 一里塚のエノキ | 一里塚は江戸幕府が主要街道を整備した際に設けたもので、市内に 9 箇所あったといわれるが、現在残されている唯一のもので、貴重な遺跡 である。エノキの状態からも江戸時代に植えられたものと思われ、かつ ての東海道の面影を忍ぶ手がかりとなっている。 |
| 村上社のクスノキ | 名古屋市指定天然記念物である。樹齢 1,000 年とされる古樹で根元は肥大してこぶ状となっている。鎌倉街道が通り、対岸の野並・古鳴海の渡船場であり、舟人の目標であったといわれている。 |
| 古鳴海八幡社のクスノキ | 元来、2 つの幹が交わる形で人字状になっており、小さい方が枯れてしまったが、今でも交差の跡が残っている。 |

出典:「都市景観重要建築物等指定物件」(名古屋市ウェブサイト)

(2) 眺望点

調査地域周辺における眺望点を表 3-1-37 及び図 3-1-23 に示す。

表 3-1-37 眺望点

| 眺望点 | 眺望点の状況等 |
|------------------------|-------------------------------|
| 東海橋線 (呼続小学校前の横断歩道橋) | 交通量が多く、市内でも有数の渋滞が発生する幹線道路である。 |
| 本城公園 | 事業予定地に隣接し、不特定多数の人が利用する公園である。 |
| 星崎鳴海線 (名南工業高校南の交差点) | 交通量が多く、市内でも有数の渋滞が発生する幹線道路である。 |

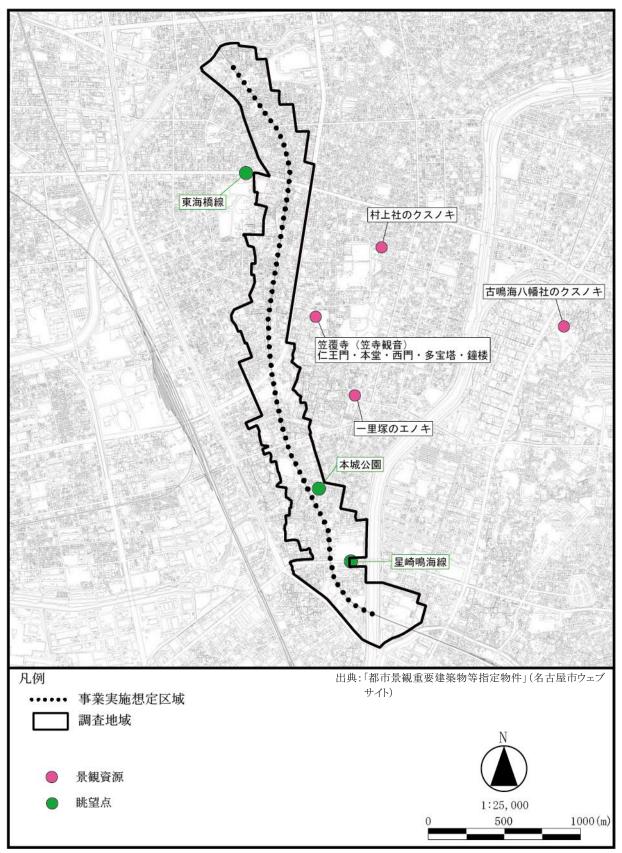


図 3-1-23 景観資源及び眺望点の状況

(3) 屋外レクリエーション施設

調査地域周辺における屋外レクリエーション施設の状況を表 3-1-38 及び図 3-1-24 に示す。

表 3-1-38 屋外レクリエーション施設の状況

| 名称 | レクリエーション施設の状況 |
|-------|---------------|
| 呼続公園 | 野球場 |
| 赤坪公園 | 野球場 |
| 元塩公園 | テニスコート |
| 丹後公園 | 野球場、テニスコート |
| 大江川緑地 | サイクリングコース |
| 天白川緑地 | サイクリングコース |

出典: 「名古屋市みどりの年報 2017年」(名古屋市、平成 29年)

(4) 人と自然との触れ合いの活動の場

調査地域周辺における人と自然との触れ合いの活動の場の状況を表 3-1-39 及び図 3-1-24 に示す。

表 3-1-39 人と自然との触れ合い活動の場の状況

| 区分 | 名称 | 人と自然との触れ合い活動の場の状況等 | | | | | |
|--------------|--------------|-----------------------------|--|--|--|--|--|
| | 粕畠公園 | 広場、遊具等が設置されている。 | | | | | |
| | | 多数の石碑が置かれた小高い丘であり、桜の名所としても | | | | | |
| | 丹八山公園 | 知られる。丘の下には広場、遊具等が設置されている。 | | | | | |
| 基幹公園 | 本城公園 | 広場、遊具等が設置されている。 | | | | | |
| | 本星崎公園 | 広場、遊具等が設置されている。 | | | | | |
| | 阿原公園 | 広場、遊具等が設置されている。 | | | | | |
| | 最中公園 | 広場、遊具等が設置されている。 | | | | | |
| 都市緑地 | 天白川緑地 | 天白川の河川敷に整備された緑地である。 | | | | | |
| | | 中井用水は天白区下八事下池を水源とする水路で、大江 | | | | | |
| 緑道 | 中井用水緑道 | 川に注いでいる。灌漑用水として作られたと考えられている | | | | | |
| | | が、現在では水路は中井用水緑道として整備されている。 | | | | | |
| 性则绿地 | 熊野三社特別緑地保全地区 | 神社・寺院等の建造物、遺跡等と一体となって、または伝承 | | | | | |
| 特別緑地 保全地区 | 桜神明社特別緑地保全地区 | もしくは風俗慣習と結びついて、地域において伝統的、文 | | | | | |
| | 七所神社特別緑地保全地区 | 化的意義を有する緑地として指定されている。 | | | | | |

出典:「南区のまちめぐり」(名古屋市南区ウェブサイト)

「特別緑地保全地区の指定状況(平成29年3月1日現在)」(名古屋市、平成29年)

「名古屋市みどりの年報 2017年」(名古屋市、平成 29年)

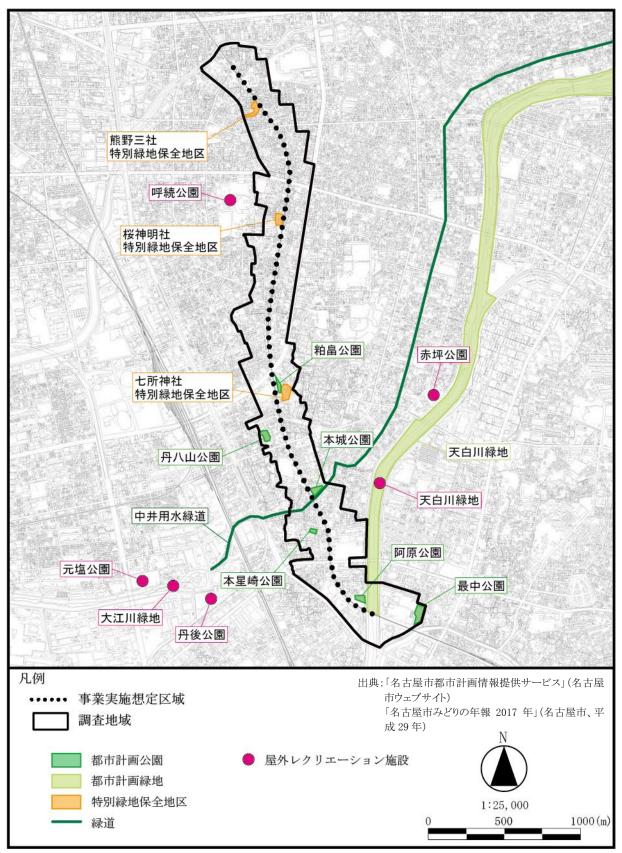


図 3-1-24 屋外レクリエーション施設及び人と自然との触れ合い活動の場の状況